

## 平成 28 年度 日本教育情報学会国際交流研究会 国際会議 IIAI AAI 2017 研究発表報告

○日時：平成 29 年 7 月 9 日（日）13:00～14:40

○会場：静岡県浜松市アクトシティー スペシャル・セッション参加者 35 名

本研究会は平成 26 年度に日本教育情報学会研究委員会の下に設置された研究会である。本研究会は平成 26 年度の後半から活動を開始した。今回、本研究会発足後初めて国際会議の場で本研究会の会員を中心に 3 名の研究者が英語による研究発表を行った。以下、それぞれの発表者の内容を報告する。

なお、本国際会議は、日本で開催される国際会議という比較的珍しい形態である。正式には 6th International Congress on Advanced Applied Information という名称で行われる会議である。発表は英語による口頭発表で行われる。今回は特に、本学会員の森雅生教授（東京工業大学）のご尽力により本研究会と AAI とがコラボするスペシャル・セッションという形で開催された。森教授にはこの場を借りてお礼を申し上げたい。

### 1. 研究発表



図 1 会場の様子：平成 29 年 7 月 9 日（日）

本スペシャル・セッション (DSIR-SS1) の全体テーマは、”Merit and demerit of the net use in higher education”であった。本セッションのオーガナイザーおよび司会進行は小川教授（山口大学）が担当した。

(1) 小川 勤（日本教育情報学会国際交流研究会長：山口大学教授）

【発表テーマ】

Study on educational effect inspection of new subject "information security and morals"

: Significance and problem of the curriculum revision judging from class evaluation analysis

本発表は、平成 20 年度からこれまで実施してきた共通教育における情報教育のカリキュラム改革について、その概要と授業評価アンケートを通して、学生が受講した新科目の内容やレベル、使用した教材、指導方法等に対してどのような意見を持ち、どんな点を改善して欲しいのかにつ

いて分析した結果を発表した。新科目「情報セキュリティ・モラル」は新入生全員対象に必修科目として導入した。分析結果からはアンケート実施前からある程度予想された結果だけでなく、情報モラルに対する学生の意外な結果も明らかになった。また、情報処理分科会では受講学生に対するアンケート結果とともに、授業を担当した教員にも意見を聞き、教育内容や教えるべきレベル、必要と感じた教材の改善点などについて様々な意見交換を実施したのでこの結果も併せて発表した。本学が他大学に先行して取り組んだ情報セキュリティ・モラルを重点化した教育カリキュラムの改訂の実施結果から明らかになった知見が他大学のカリキュラム改革の参考になることを念頭に置いて発表した。さらに発達障害のある（疑われる）学生たちが当該授業を受講する意義についても発表を行った。発表終了後、会場からは今後のカリキュラム改革の方向性やそもそも、このような改革を行わなければならなかった背景について質問があった。これに対して山口大学ではデータサイエンス教育を含めたカリキュラム改革が現在も進行しており、来年度（平成 30 年度）から本格実施されることが明らかにされた。



図 2 小川教授（山口大学）による口頭発表の様子

（2）陳 那森（日本教育情報学会国際交流研究会副会長：関西国際大学教授）・山下 泰生（関西国際大学副学長・教授）

【発表テーマ】

The Possibility for the Active Use of Smart Devices in University Education

本発表では大学教育の場でスマートフォンの積極的な活用の可能性について、アンケート調査の結果等をもとに分析したものである。大学教育の中で学生のスマートフォンの利用はどのような場面が多いのかを分析するとともに、「LINE」などのアプリを使って学生たちの修学活動をどのようにサポートできるかを考えた興味深い内容だった。分析によると、今ごろの大学生は、ネット利用に対する不安を抱えながらも、スマートフォンの学習活動への活用を積極的に捉えているようだ。この機会をとらえてスマートフォンをどのように活用できるかを考えることは今後有効であると感じた。



図 3 陳教授（関西国際大学）の研究発表の様子

（3）上野 真弓（本学会員：算数パフォーマー）

【発表テーマ】

Possibility of Felt Ball Math

: A tool for arithmetic hated who sees by watching, touching and moving

数や形、色の認知や計算等の論理的思考力をどのように育成するかについて、実際にフェルト

ボールや様々なツールを使って発表があった。内容は大変興味深いものであり、さらにこれらの実践結果を数値化するなど統計分析を試みることにより、より実効性のある実践力の育成に結び付くのではないかと感じた。



図 4 上野さん（本学会員）の研究発表の様子



図 5 上野さん（本学会員）のフェルトボールを使った発表の様子

## 2. 国際会議に参加して

今回の研究会は国際会議で英語による発表ということでかなり緊張した。事前の準備も国内の学会発表とは異なり、手続きも原則すべてネット上で行われるということでもかなり勝手が違うものだった。しかし、3名の発表者は各自十分事前準備をしてから発表に臨んだ様子がよく分かった。今回参加して本学会および他の研究会の会員も機会があればこのような会議に参加した方がよいと感じた。確かに言葉の壁は存在するが、研究の幅を広げ、新たな知見を得るためにも国際的な研究交流を今後少しでも実施していく必要性を感じた。